

# 特別支援学校の経験の浅い教員の専門性向上のための 研修システムの実践的検討

—メンタリングの活用を中心として—

Practical study on training system for unskilled special need education teachers

守屋朋伸\*・坂本 裕\*\*・沖中紀男\*\*

MORIYA Tomonobu, SAKAMOTO Yutaka and OKINAKA Norio

## はじめに

近年、学校教育における課題の複雑・多様化、学校現場を取りまく環境の変化に対応すべく、教員の質の充実が求められている。教員の資質能力の向上方策の検討に当たっては、経験の浅い教員が大量に誕生することへの対応も見据え、教員が教職生活の全体を通じて不断に専門性を高めていくことを支援するシステムづくりが喫緊の課題として挙げられている（中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会、2010）。

そうした中で、近年、専門的技術を体得した先輩教員をメンター、経験の浅い教員をメンティと捉え、『基本的には1対1で、継続的、定期的交流し信頼関係を作りながら、経験の浅い教員の仕事や諸活動を支援し、精神的、人間的な成長を支援する』メンタリング（小柳, 2009）が学校の研修システムとして導入されるようになってきた（例えば、横浜市教育委員会, 2011）。

そこで、本研究では、特別支援学校の経験の浅い教員の専門性向上の研修にメンタリング、特に、必要な情報への接近を支援する機能（Harris, 2001）をどのように導入していけばよいのかについて、A県立B特別支援学校を事例校として立案し、実施した。そして、研修の実施状況や対象となった教員の変容の状況を分析し、特別支援学校の経験の浅い教員の専門性向上のためのメンタリングを活用した研修システムの内容、方法、運用について検討した。

## 方法

### 1 対象校および対象者

#### 1) 対象校の概要

B特別支援学校は、A県中心部に位置する小・中学部からなる肢体不自由児の特別支援学校である。県内唯一の肢体不自由児入園施設に隣接しており、施設と自宅から通学する約60名の児童生徒が在籍している。在籍する児童生徒の約8割が重複障がい学級に在籍し、約6割が医療的ケアの対象となる、県内でも重度・重複化の傾向が顕著にみられる学校である。

#### 2) 対象者の概要

B特別支援学校に勤務する特別支援学校勤務歴3年以下の教諭2名、講師4名、計6名（以下、初心者教員）。

### 2 検討課題

#### 1) 課題1：研修内容・方途の検討

研修内容とその実施に関する調査を以下のとおり実施した。

##### (1) 調査方法

メンタリングを活用した研修を行うにあたり、Table 1に示したような、研修の内容とその実施に関する質問紙調査を行った。その質問紙は、守屋 (2012) が明らかにした特別支援学校教員のコンセプチュアルに関わる専門性の因子である<教育実践の向上>、<子どもの総合的捉えへの不安>の視点をもって作成した。対象は初心者教員6名、熟達教員5名、管理職4名とし、3者の視点から研修内容とその実施に関する検

\* 岐阜大学大学院教育学研究科（岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校）

\*\* 岐阜大学大学院教育学研究科

Table 1. 初心者教員の専門性向上のための研修の内容とその実施に関する質問紙調査

<初心者教員>

問1:「教育実践の向上」に関して、不安に感じている部分や課題であると感じていることがあれば記入してください

問2:「教育実践の向上」に関する力量を高めていく上で、学び、身に付けたいことは何ですか  
また、どのような取組の場があるとよいと思われませんか

問3:「子どもの総合的捉え」に関して、不安に感じている部分や課題であると感じていることがあれば記入してください

問4:「子どもの総合的捉え」に関する力量を高めていく上で、学び、身に付けたいことは何ですか  
また、どのような取組の場があるとよいと思われませんか

<熟達教員・管理職>

問1:「教育実践の向上」に関する力量を高めていく上で、学び、身に付けて欲しいことは何ですか

問2:質問1でお答えいただいたことについて、どのような場、どのような取組でその力量を高めていくことがよいと思われませんか

問3:「子どもの総合的捉え」に関する力量を高めていく上で、学び、身に付けて欲しいことは何ですか

問4:質問1でお答えいただいたことについて、どのような場、どのような取組でその力量を高めていくことがよいと思われませんか

討を加えることとした。

(2) 調査時期 2011年7月下旬～9月上旬

2) 課題Ⅱ：研修計画の検討

課題Ⅰにおける特別支援学校の初心者教員の専門性向上のためのメンタリングを活用した研修の内容とその実施についての検討結果を踏まえ、これまでB特別支援学校で行われてきた研修内容、方法を校務分掌部各係長4名からなる研修担当者が再検討した。そして、新たな研修計画の立案を行い、以下の手順に従って検討を行った。

(1) 課題Ⅱ－1：研修運用の検討

課題Ⅰの結果を踏まえて立案された研修計画を、B特別支援学校にて実施し、その運用について検討を加えることとした。

(2) 課題Ⅱ－2：研修運用の実際の検討

策定した研修計画を実施後、研修内容、方法についての評価として、初心者教員、メンター役の教員を対象に、質問紙調査ならびに面接調査を行った。

3 期間 2011年7月下旬～12月

結 果

1 課題Ⅰ：研修内容の検討

特別支援学校の初心者教員の専門性向上のためのメンタリングを活用した研修を実施するにあたって行った研修の内容とその実施に関する質問紙調査の結果の集約を、Table 2, 3に示

した。初心者教員からは不安を中心に、熟達教員からは伝えたいことを中心に、管理職からはその立場に望む視点を中心に多様な意見が示された。

2 課題Ⅱ：研修計画の検討

1) 課題Ⅱ－1：研修運用の検討

特別支援学校の初心者教員の専門性向上のためのメンタリングを活用した研修の内容とその実施についての検討結果を踏まえ、メンタリング導入における以下の視点が挙げられた。

(1) メンタリング導入における視点

初心者教員をメンティ、熟達教員と先輩教員をメンターとして、メンタリング、その中でも特に、必要な情報への接近を支援する機能を初心者教員向けの研修に導入するにあたって、以下の3つの視点が挙げられた。

- ・共通の話題となる情報の提供
- ・共通の話題を持てる時間の設定
- ・共通の話題となる道標の設定

(2) 研修スタイル

初心者教員の専門性を高めるための研修に、メンタリングにおける視点として示された情報の提供、時間の設定、道標の設定の3点を考慮し、基礎事項についての自己学習とバズセッション、担当児についての事例検討、担当授業についての授業検討の3つのスタイルが設けられた。これらの研修方法それぞれに、メンター役となる熟達教員や先輩教員が配置された。

Table 2. <教育実践の向上>に関わる質問紙調査結果

不安や課題	
初心者教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育に関する知識・理解の少なさ</li> <li>・主指導者として授業を行っていくときの引き出しの少なさ</li> <li>・障害の重い子どもたちの目標設定、評価の難しさ</li> <li>・個別の指導計画、年間指導計画等の作成の難しさ</li> <li>・授業に対する不安や分からないことを相談したり、話し合ったりする場の少なさ</li> </ul>
専門性を高めていくための研修内容	
初心者教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の適切な実態把握を行い、ねらいを明確にした授業実践ができる力を身に付けること</li> <li>・さまざまな授業実践を知り、学ぶこと</li> </ul>
熟達教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体的に学び、活動できるように展開や手立て（働きかけ方、教材提供、状況づくり）が考えられること</li> <li>・自立活動や教科についての理解を深めること</li> <li>・他の授業との関連、関係を考えながら学校生活全体をみる力をもつこと</li> <li>・チーム・ティーチングの理解とその実践ができること</li> <li>・他教師の実践に学ぶ姿勢をもつこと</li> <li>・実践を振り返り、より最適な支援ができるように検討する力をもつこと</li> </ul>
管理職	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真摯さ、誠実さ、謙虚さをもつこと</li> <li>・知識と共に指導技術を身につけること</li> <li>・実践した授業を振り返ること</li> <li>・チーム・ティーチングの理解とその実践ができること</li> </ul>
専門性を高めていくための方途	
初心者教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教師、他学級の授業参観と意見交流</li> <li>・重度・重複障害の子どもが在籍する他校の参観</li> <li>・校内の実践事例のデータベース的な活用</li> </ul>
熟達教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業実践とその振り返り(計画・記録・反省)</li> <li>・チーム・ティーチングによる授業実践と振り返り（日常の中での実践）</li> <li>・他者の実践から学び、自ら実践すること</li> <li>・授業研究に取り組むこと（第3者の意見を参考にしたり、他者の授業を参観したりする）</li> <li>・主指導者としての授業実践を積むこと</li> <li>・先輩教員からの現場研修</li> </ul>
管理職	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修、校外研修、自主的な研修への参加</li> <li>・日常的なチーム・ティーチング間での話し合いの場をもつこと</li> <li>・日々の観察、教材研究、実践、情報交換をベースに研修、授業研究や授業改善が行われること</li> </ul>

### ①基本事項についての自己学習とバズセッション

特別支援学校において、本来その基本とされた先輩教員から初心者教員への専門的知見や技術を伝承する場として設定された。その運用にあたっては、特に情報の提供の視点から検討が加えられ、自己学習に取り上げる基本的事項にあたる内容について、初心者教員、熟達教員、管理職に行った研修内容とその実施に関する調査結果を加味し、Table 4 のようになった。そしてその内容に関わる教材として、国立特別支援教育総合研究所がインターネット配信するデ

ジタルコンテンツが活用された。その具体的な展開については、初心者教員6名とメンター役となる教員が2名ないし3名参加し、デジタルコンテンツを共に視聴した後、その内容についてのバズセッションを行うこととされた。なお、バズセッションがスムーズに行えるように、1回目を実施する前に、日頃の教育実践における悩みや相談、意見交流をする会が2回、別途実施となった。

Table 3. <子どもの総合的捉えへの不安>に関わる質問紙調査結果

不安や課題	
初心者教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由教育に関する知識・理解の少なさ</li> <li>・ 障害の重い子どもたちの実態把握の難しさ</li> <li>・ 障害の重い子どもたちの目標設定、評価の難しさ</li> <li>・ 子どもの捉えに関する不安を相談、話し合う場の少なさ</li> </ul>
専門性を高めていくための研修内容	
初心者教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由教育や発達に関する知識を習得すること</li> <li>・ 子どもとのコミュニケーションを図る力を高めること</li> <li>・ 摂食指導や自立活動における身体の動きや認知面へのアプローチなど、具体的な実践にかかわる知識や指導方法を学ぶこと</li> </ul>
熟達教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育活動の主体は子どもであるという視点を理解すること</li> <li>・ 子どもに学ぶ姿勢を第一にもち、実践知を積み重ねること</li> <li>・ 疾病や障害、健康管理についての知識をもつこと</li> <li>・ 発達に関する知識・理解をもつこと</li> <li>・ チーム・ティーチングの理解とその実践ができること</li> <li>・ 必要な人(保護者・外部専門家)と連携できること</li> </ul>
管理職	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疾病や障害、健康管理についての知識をもつこと</li> <li>・ 発達に関する知識・理解をもつこと</li> <li>・ 支援者として寄り添うことや人間としてきちんと関係を作るなどの基礎的な姿勢をもつこと</li> <li>・ 正確な情報収集、分析の力と多方面と連携・協力する力をもつこと</li> </ul>
専門性を高めていくための方途	
初心者教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎・基本の学びができる研修</li> <li>・ 実践歴を蓄えた先輩教員から学ぶ場</li> <li>・ 他教員との情報交換、PT, OT, ST等の外部専門家や保護者との情報交換</li> </ul>
熟達教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎・基本の学びができる研修</li> <li>・ 日々の授業実践とその振り返り(PDCAサイクル)</li> <li>・ チーム・ティーチングによる実践と振り返り</li> <li>・ 外部専門家の活用</li> </ul>
管理職	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内研修や校外研修などの活用</li> <li>・ 校内、校外の研究会等で実践をまとめ発信する機会をもつこと</li> <li>・ 日々の授業実践を振り返る時間を作ること</li> <li>・ 保護者との共通理解</li> </ul>

## ②担当児についての事例検討

特別支援教育の対応原理は、個への対応とされている。初心者教員が、その大切さや深みがより実感できることを意図して設定された。その運用にあたっては、担当する児童生徒から1名を抽出して、自立活動などの個別指導の時間を用いて実践を行うこととされた。実践にあたっては、特に時間の設定の視点から検討を加え、週1回の事例検討の機会をもつこととされた。そして、指導実践の振り返りの場を重視し、チーム・ティーチングを行う学級の教員をメンター役として、初心者教員を囲んで意見交流の場をもつこととされた。なお、事例検討に要する時間の設定は初心者教員とメンター役の教員に一

任となった。

## ③担当授業についての授業検討

教育専門職である教員が行う業務の中核となるのは授業である。その授業をよりよいものとするため、授業検討が設定された。その運用にあたっては、特に道標の提供の視点から検討を加え、公開授業が設定された。検討対象とする授業は初心者教員が主担当である活動や単元を取り上げ、初心者教員とメンター役のチームを組んでいる教員が、目標設定、教材・教具、教師の支援などに関してディスカッションする機会をもつこととされた。そして、公開授業後の検討会は、そのメンター役の教員との授業に関する省察を中心に授業の振り返りを行うことと

Table 4. 研修計画

	基本的事項の自己学習 とバズセッション	担当児についての事例検討	担当授業についての授業検討
10月	デジタルコンテンツを活用した自己学習と、メンター役の教員とのバズセッション ※ニーズに基づいた研修内容を設定 ※月2回程度、放課後に実施する	担当する児童生徒を取り上げた当てた事例検討	主指導者として担当する授業についての授業検討
11月	第1回 「重度重複障害のある子のコミュニケーション①」  第2回 「重度重複障害のある子のコミュニケーション②」	※自立活動の場を中心としながら、担当する児童生徒に関する事例検討を、メンター役の学級の教員と行う ※週1回を目安として、ディスカッションの時間を設ける	※担当する授業の活動、単元を取り上げた授業検討を、メンター役の学級の教員と行う ※指導案を作成し、公開授業を実施する（1回）
12月	第3回 「重複障害のある子の指導—身体の動き—」  第4回 「重度・重複障害のある子どもの教育におけるAAC活用」 「保護者理解・保護者支援」		

された。

### (3) 研修計画

課題Ⅰの結果を踏まえて、また、上述した研修スタイルを踏まえ、初心者教員の専門性を高めるためのメンタリングを活用した研修の全体計画はTable 4 のようになった。

## 2) 課題Ⅱ-2: 研修運用の実際的検討

### (1) 各取組の実施状況

#### ①基本事項についての自己学習とバズセッション

10月～12月に4回の基本事項についての自己学習とバズセッションが実施された。実施結果はTable 5 のとおりであった。

毎回、前半はデジタルコンテンツ視聴による自己学習を行い、後半はその内容や自身の実践にかかわる疑問、課題などのバズセッションが行われた。初心者教員がもつ悩みや課題に対し

て、メンター役の教員が自身の実践を語ったり、情報提供やアドバイスしたりする形で研修が進み、2時間を超える程の回もあった。初心者教員Aは、他校種で勤務経験があり、他の初心者教員と経歴に違いがあったが、バズセッションに自分から参加する姿がみられた。デジタルコンテンツで扱ったテーマを自身の実践に置き換え、日頃、困っていることについて助言を求める姿がみられた。この時の助言を基に、実際の指導場面でメンター役の教員が指導の手本を示すことにつながったこともあった。

#### ②担当児についての事例検討

6名の初心者教員全員が、自立活動の個別課題の時間を取り上げて事例検討を行った。その研修は取り上げた事例児、その内容に応じて展開された。例えば、コミュニケーションに関する課題を取り上げ、担当児童のケーススタディ

Table 5. 基本事項についての自己学習とバズセッションの実施結果

実施日	内 容
10/20 (木)	} ※プレ研修 (日頃の教育実践における悩みや相談, 意見交流)
11/ 9 (水)	
11/18 (金)	第1回「重度重複障害のある子のコミュニケーション①」
12/5 (月)	第2回「重度重複障害のある子のコミュニケーション②」
12/12 (月)	第3回「重複障害のある子の指導－身体の動きを中心にして－」
12/20 (火)	第4回「重度・重複障害のある子どもの教育におけるAAC活用」 「保護者理解, 保護者支援について」

に取り組んだ初心者教員Bは、現在直面している悩み、課題をメンター役の教員と共有することから取組が始められた。悩みや課題に関するメンター役の教員とのディスカッション、アドバイスを踏まえて、次時の指導を実践し、再度振り返りを行うことが重ねられた。週1回のメンター役の教員とのディスカッションの機会をもちながら、実践と振り返りのサイクルで取組を進める中で、よりねらいに焦点を当てた、活動内容の設定、教材・教具の工夫など、支援に変化がみられていった。

また、身体の動きに関する課題に取り組んだ初心者教員Cは、目標設定と指導の手立ての再確認をメンター役の教員と行い、実際の指導の様子をメンター役の教員に観察してもらった形で取組が進められた。その中で、メンター役の教員が示した身体へのアプローチの模範と自分の実践とを比較しながら、担当児童への支援の意味を考えながら取り組む姿がみられるようになった。また、週1回のメンター役の教員とのディスカッションをとおして、支援の目指す意味を知り、身体へのアプローチをとおした児童とのコミュニケーションに気づく姿がみられた。

そして、担当児童のコミュニケーションに関する課題に取り組んだ初心者教員Dは、実践の中で悩んだり困ったりしていることについて、メンター役の教員に随時、相談する形で取組が進められた。担当児の個別課題の取組について十分な検討を重ねないまま取り組んでいた自身の実践を、メンター役の教員からのアドバイス

を基に、改めて見直し、改善する姿が見られた。なお、初心者教員Dはメンター役の教員とのディスカッションがその必要に応じて随時できるようにしたが、日常の校務の間に時間を割くことができず、ディスカッションの機会を他の初心者教員よりももつことができなかった。

### ③担当授業についての授業検討

6名の初心者教員が、集団形態で行う自立活動などの授業を用いて授業づくりに取り組み、日々の振り返り、公開授業をとおした振り返りを行った。例えば、自立活動の授業に取り組んだ初心者教員Eは、主担当者として、児童生徒一人一人の目標、指導の手立てをメンター役の教員と再確認するところから取組が進められた。障害の程度が重度の児童生徒の表出を促すための刺激の程度、表出の受け止め方など、メンター役の教員との共通理解を図ることから、その支援への理解を深める姿がみられた。公開授業後の事後研究会では、さまざまな意見に触れる中で改善点を見つけたり、メンター役の教員との振り返りの中で、改めて自分たちの支援の意図を再確認したりする姿がみられた。

また、同じく自立活動の授業に取り組んだ初心者教員Bは、自分で考えたアイデアを基にしながら、授業づくりに取り組んだ。自作の教材・教具、自身で考えた展開で実際に授業を行った後に、メンター役の教員とのディスカッションを行うことで、次時の授業に向けての、教具、児童への働きかけなどに関する検討を重ねる姿がみられた。そして、初心者教員Fは、自立活

動での授業をとおして、指導案作成、公開授業にも初めて取り組むこととなった。一人一人の目標と手立についてメンター役の教員と意見交流しながら、活動内容、展開のあり方について考える姿が見られた。メンター役の教員に分からないことや疑問に思うことについて質問することをおして、初めて勤務する特別支援学校における自立活動の授業の取組が少しずつ積極的になっていった。

## (2) 初心者教員による評価

### ①基本事項についての自己学習とバズセッション

初心者教員6名中1名が「とても効果的だった」、5名が「まあまあ効果的だった」との評価であった。

これまででないこの学習スタイルにおいて、共通の話題を設定することで、深まりのある学びが成果として挙げられた。例えば、初心者教員Cはデジタルコンテンツ視聴とバズセッションにより、デジタルコンテンツの視聴だけでは理解できない部分がメンター役の教員とのバズセッションにより理解できた。また、自立活動の身体の動きに関する指導に課題を抱えていた初心者教員Aは、デジタルコンテンツでの自己学習後、メンター役の教員から得られたにアドバイス、次時の指導に活かすことができた。そして、2年ほどの経験を持つ初心者教員Eも、自立活動における身体の動きやコミュニケーション支援に関するメンター役の教員のさまざまな見方、考え方に触れたことにより、自分自身の実践を見つめ直し、今後の実践の方向性を改めて考え直したりする機会となった。このように、共通の話題を設定したメンター役の教員との自己学習後のバズセッションが、自己学習の補強になるだけでなく、初心者教員がメンター役の教員のさまざまな意見、助言に触れ、それぞれの日頃の悩みの解決に向かう姿がみられる機会になったことは、とても有益であった。そのため、初心者教員からは、このような学習の機会の継続が希望された。加えて、いろいろな先輩教員がメンター役の教員を担当することによって、さらに学びを深めたいとする意見も聞かれた。

### ②担当児についての事例検討

初心者教員6名中4名が「とても効果的だった」、2名が「まあまあ効果的だった」との評価であった。

メンター役の教員と定期のディスカッションをとおし、より個への対応に取り組もうとする学びができたことが挙げられた。例えば、自立活動の身体の動きに関する事例検討に取り組んだ初心者教員Cは、メンター役の教員と目標と手立てを再確認することから担当児の支援の方向性を確かなものにできた。また、この初心者教員は、支援にあたっては、実際にメンター役の教員の指導を観察し、自分の指導と比較することをおして、支援のポイントに気づくこともできた。また、初心者教員Bは、具体的な支援方法についてメンター役の教員からいくつかの例示を受ける中で、より工夫した支援方法を考え、実践に取り組むことができた。なお、この2人の初心者教員は、これまで実践の中で抱えていた取組への不安や迷いが軽減したともしている。さらに、メンター役の教員とのディスカッションを契機として、チームでの共通理解、チームの教員間の意識の変化を実感をした初心者教員Fもいた。但し、メンター役の教員とのディスカッションの時間を固定せずに、必要に応じて設けようとした初心者教員Dは、思うようにその時間をとることができなかった。

### ③担当授業についての授業研究

初心者教員6名中2名が「とても効果的だった」、4名が「まあまあ効果的だった」との評価であった。

この学習のスタイルでは、メンター役の教員との公開授業を目指した取組をとおして、精巧な授業づくりが行えたことが成果として挙げられた。初心者教員Cは、メンター役となる学級の教員と、児童生徒一人一人の目標と手立てについてのディスカッションを密に行うことをおして、より個に応じた授業づくりに努めることができた。また、自立活動に初めて取り組んだ初心者教員Fは、メンター役の教員と自立活動の領域・項目を実際の授業と重ねることで、児童生徒一人一人の目標を見直したり、目標と照らし合わせた活動内容を考え、授業づくりに

取り組めた。

### (3) メンター役の教員による評価

#### ①基本事項に関する自己学習とバズセッション

メンター役の教員4名中1名が「とても効果的だった」、2名が「まあまあ効果的だった」、1名が「分からない」との評価であった。

メンター役の教員と初心者教員が、デジタルコンテンツを共に視聴したことにより、課題意識を共有できるメリットが挙げられた。そして、バズセッションの中で、初心者教員が悩みや疑問を語ること、また、メンター役となる教員がその語りを聞いたり、助言したりできる場があることよさが挙げられた。研修が2時間を超える程の回もあったが、それゆえに、時間の確保の難しさも挙げられた。加えて、メンター役の教員を校内のいろいろな専門的な知識や技術を有した教員が担うことによって、初心者教員にさまざまな知識や技術の伝承がより図られるのではないかとする意見が挙げられた。

#### ②担当児についての事例検討

メンター役の教員6名中3名が「とても効果的だった」、3名が「まあまあ効果的だった」との評価であった。

初心者教員とメンター役の教員が共通の時間を持てる機会となったことが、その良さとして第一に挙げられた。日頃、チームで一緒に取り組みながらも、時間の制限や同僚としての遠慮があつてか、ディスカッションを必要を思いながらも、あまり頻繁に指導に関するディスカッションができない状況から、一步踏み出すことにつながった。例えば、初心者教員が自ら担当児の児童生徒の指導に関して、メンター役の教員だけでなく、他の教員にも積極的に助言を求めようになったことが挙げられた。そうしたことを受け、チームの教員間で児童生徒の指導の話をする機会がこれまで以上に増えたことも指摘された。但し、一方において、本来の事例検討は長期に渡って取り組み、児童生徒の確かな成長があつて初めてその意義を達成するものであることから、3ヶ月限定であった今回の取り組みをどのように継続していくかについても意見が挙げられた。

#### ③担当授業についての授業検討

メンター役の教員6名中3名が「とても効果的だった」、3名が「まあまあ効果的だった」との評価であった。

メンター役の教員との授業検討の取組をとおして、目標や手立てを見直し、児童生徒一人一人に合わせた授業づくり、展開を行おうとする初心者教員の姿がこれまで以上にみられるようになった。また、講師の初心者教員にとっては、学習指導案を書く機会となり、教材研究、授業の流れ、話し方、教材の提示方法などをより考えることができた。但し、この研修は3ヶ月の期間を限定した中で行ったものであり、年間を通じて取り組むことについては、その難しさを指摘する意見が挙げられた。

## 考 察

課題Ⅰにおいて研修の内容、課題Ⅱにおいて研修計画の検討を行った。それらの結果を踏まえ、本研究の中心課題である特別支援学校における初心者教員向けの研修にメンタリングの機能、その中でも特に、必要な情報への接近を支援する機能を導入するにあたって配慮した3つの視点である、共通の話題となる情報の提供、共通の話題を持てる時間の設定、共通の話題となる道標の設定、それぞれについて、課題Ⅱ-2の研修運用の実際的検討を踏まえ考察したい。

### 1 共通の話題となる情報の提供

共通の話題となる情報の提供としては、共通の話題となるようにデジタルコンテンツでの自己学習を終えた後に、その内容に関してのバズセッションの場を設定した。共通の話題を設定することで、1時間を超えるような活発なバズセッションが4回とも行われた。その中で、デジタルコンテンツを視聴しただけでは理解できなかったことが理解できた初心者教員Cや、メンター役の教員が語ったその内容に関する実践例を聞くことで、実際の授業とデジタルコンテンツの内容がつながったり、自身の実践の改善につながりたりした初心者教員Eがいた。このことから、島宗(2004)も指摘するように、あらかじめ共通の話題となるような事項を研修担当者などが準備し、内容(話題)を明確にしてお



くことの大切さが指摘された。また、事前に初心者教員や熟達教員への調査を行ったことで、いずれの者の視点からもその必要性を感じる話題であったことも重要であったと考える。さらに、初心者教員がバズセッションの前に、デジタルコンテンツで共通の話題についてある程度の基礎的な情報をもつようにしたことも、その後のバズセッションが活発になったことにつながったと思われる。

## 2 共通の話題を持てる時間の設定

共通の話題を持てる時間の設定については、週1回のメンター役の教員とのディスカッションの機会をもつことによって、実践と振り返りのサイクルで取組を進めることができたことを、初心者教員、メンター役の教員の両方が挙げた。一方、初心者教員Dは随時ディスカッションの場をもつようにしたが実際は難しかった。特別支援学校は複数担任制で授業を行っているために、日頃の教師間の意見交流が容易であるように思いがちである。しかし、今回の取組からも明らかになったように、ディスカッションするための時間を設定することが必要な情報に接近することに有効に機能していた。このことから、Blanchard & Lorber (1984) も指摘するように、短時間であっても、初心者教員とメンター役となる教員に共通の話題を持てる時間の設定が重要であることが示唆された。

## 3 共通の話題となる道標の設定

共通の話題となる道標として、初心者教員とメンター役の教員がともに目指して取り組むことになるよう、公開授業を設定した。初心者教員CやFのように、メンター役の学級の教員とのディスカッションをとおして、障害の程度が重度の児童生徒に合わせた教材・教具の工夫をしたり、授業展開の改善をしたりする初心者教員の自ら取り組む姿がみられた。こうした姿は、千葉大学教育学部附属養護学校 (2004) も指摘しているように、道標となる授業に向かって、計画を練っていく過程で授業で取り組むことそのものが初心者教員にとって明確になっていったものと考えられる。研修における授業を、細案を書いて行うものだけに限定せず、略案さらには腹案までも含め、そこに至るまでの過程を

大切にするような視点も必要となるといえよう。

## おわりに

特別支援教育、特に知的障害教育の専門性向上は、本来、専門的技術を体得した先輩教員がその専門的技術を経験の浅い教員に伝承することによって教員の専門性が保たれてきた (山口, 1979)。しかし、近年、在籍児童生徒数の増加に伴う教員の増加で、伝承的な方法での専門性の担保が難しい状況にある。このような状況のなか、本研究で明らかになった経験の浅い教員の専門性向上のための研修にメンタリングの機能は、山口 (1979) が指摘した教員の専門性を高めるための本来の方途と重なる部分が多いものであったと考える。

特別支援学校では、教員の専門性向上が喫緊の課題として挙げられる中で、より組織的な研修システムの導入が求められる状況にある。経験の浅い教員が大量に誕生することへの対応として、今後もメンタリングを活用した研修システムは、その実用性を確認しつつ、積極的に導入すべきものと思われる。A県立B特別支援学校における実践例をもとにしながら、今後は、学校規模に応じた研修システム導入のあり方、研修期間などについてさらに検討を深めていきたい。

## 謝 辞

本研究に際し、ご協力いただいたA県立B特別支援学校の皆様に深く感謝申し上げます。

## <文献>

- Blanchard, K. & Lorber, R (1984) *Putting the One Minute Manager To Work*. William Morrow Company, Newyork. 小林 薫訳 (1984) 1分間マネージャー「実践法」. ダイヤモンド社.
- 中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会 (2010) 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について (審議経過報告)
- Harris, A. (2001) Building the Capacity for School Improvement. *School Leadership and Management*, 21 (3), 261-270.

- 小柳和喜雄 (2006) 教師教育におけるミドルリーダー養成に関する研究ノート—メンターリングを中心に—. 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要, 15, 201-209.
- 守屋朋伸 (2012) 特別支援学校教員の専門性に関する調査及び実践的研究—コンセプチュアルとメンターリングをキーワードとして—. 岐阜大学教職大学院開発実践報告.
- 島宗 理 (2004) インストラクショナルデザイン. 米田出版.
- 千葉大学教育学部附属養護学校 (2004) 支援案の書き方・個別の教育支援計画. ケー・アンド・エイチ.
- 山口 薫 (1979) 今日の課題. 全日本特殊教育研究連盟 (編) 日本の精神薄弱教育—戦後30周年—第2巻教育の方法. 日本文化科学社. 232-261.
- 横浜市教育委員会 (2011) 「教師力」向上の鍵—「メンター・チーム」が教師を育てる, 学校を変える!—. 時事通信社.